

認知機能を支える看護ケア

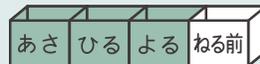
私たちは、その方の認知機能や生活状況に応じて、内服管理の方法を工夫しています。
一人ひとりに合った方法で、「飲む仕組み」を一緒に作ります。

軽度の物忘れの方には

- ① 服薬カレンダーの活用
- ② 内服時間を生活動作と結びつける工夫

例：ランチョンマットの上に内服スペースを固定する
服薬カレンダーを食卓近くの壁に設置する

- ③ 声かけ＋簡単な確認問題
(思い出すきっかけをつくる質問をする)



➡ “自分でできる力”を大切に支援します。

判断力が低下している方には

医療的リスクマネジメントの視点で安全を最優先に支援します。

- 確実な手渡し内服が出来るように医療機関と相談して薬剤調整
- デイサービスやヘルパー、看護師などの連携による内服確認
- 誤薬予防の徹底
- ご家族・ケアマネとの密な連携

➡ 安全を最優先に支援します。

中等度の認知症の方には

混乱を減らし、服薬事故を予防しながら自己管理能力の維持を図ります。

- ① 一包化の活用
 - 「何を何錠」ではなく「この袋の中身を飲む」に単純化

- ② 服薬カレンダー＋視覚的工夫

- 大きな文字
- 色分け（朝＝黄色、夜＝青など）
- 食卓の隣など、壁の目につく位置に設置



- ③ 手渡し確認（最も安全）

- デイサービスやヘルパー、看護師などの連携による内服確認
*手渡し確認が難しい場合は、ご家族の協力のもとテレビ電話などを活用して会話をしながら服用を促す方法もあります。
- 一包化＋色分け
- その都度の手渡し確認
- 繰り返しの声かけと安心できる説明

➡ 混乱を減らし、安心して内服できる環境を整えます。

“管理”ではなく
“支援”

私たちは、「飲ませる」ことが目的ではなく、
その方の尊厳と生活を守ることを大切にしています。
認知機能に合わせた関わりで、安心と自信を支えます。



内服自己管理を維持するため、 服薬に必要な認知機能へ働きかける 看護的アプローチを実践しています。

1 見当識（時間の理解）を鍛える課題

今日の振り返りノートを活用

2 遂行機能（手順を追う力）

- 薬のセットを一緒に行く
- 日付や曜日を口頭で確認してから始める
- 手順を本人に言語化してもらう
- 間違いがあった場合に「どうしたら防げるか」を一緒に考える

3 注意力（重複内服防止）

視覚確認の習慣化（空袋の確認、識別、文字確認）

4 ワーキングメモリ（短時間保持）

「今することを覚えて実行する力」を支える関わり

今から朝の薬を3種類入れます。何種類でしたか？

さっき何を確認しましたか？

* 一度指示してから数秒置いて実行してもらう

5 実際の薬を使った“模擬練習”



お気軽にご相談ください！

あまてらす きたくま

アロマセラピー fooca さまの
2階が事務所です



 あまてらす きたくま
訪問看護ステーション

〒860-0086 熊本市北区打越町39-33
TEL: 096-274-0844 FAX: 096-274-2225
担当者携帯: 090-9958-6700